

046 廣瀬享平

身体全体のバネを使って動く能力が高く、フロアで目に入るダンススタイルです。

しかし、ボディの左の軸も右の軸もほぼ整うことがなく、常によれて曲がって、その力で相手を動かそうとしており、女性が合わせることは非常に難しいでしょう。

また、あちこちの関節の硬さから美しいシルエットになりにくいのですが、特に股関節まわりと肘の硬さから本来あるべき位置に、骨盤と前腕が配置できないようです。

関節の可動域の研究や、スタンダードで守るべき軸の位置というものの精度を上げる努力を期待しています。

150 木谷友紀

足先からきちんと動作が始まっているため、音楽と動きがきちんと合っている点は素晴らしいです。しかし、上半身の配列が綺麗といえば綺麗なのですが、硬くて弱くてまったく作動していない点が、動きの伸びやかなイメージを作り出せない原因になっています。

踊っていないときに、胴体を丸める、反る、捻るなど十分な可動をできる状態にして、それを敢えて固定するという考えで身体づくりをして頂くと大きく進化できることでしょう。

245 矢島豪大

非常に全体的なバランスの良い選手です。シルエット、ボデイトーン、足元からの動作などきちんと機能しており、好印象です。

さらに発展させるためには、すべての動作を明確にすること。

軸を決めたら1ミリたりともぶれない。全体重を集めるときは1ミリも体重を逃がさない。進むべき方向を定めたときは、全エネルギーがその方向に向かうなど、一つ一つの動作に覚悟が見えるようなダンスを期待しています。

256 小林潤一

左右の軸が割りとしっかりしており、また下半身からの動きがきちんとあって、ストライドも大きく、二人で踊る位置関係も整っており、女性はとても踊りやすいと思います。

ここからさらに競技で上を目指していくためには、洗練が必要になります。

肩周りには細かな筋肉がたくさんありますが、その多くにスイッチが入るとアームとショルダーに張りが見えてきます。

また手先、足先からねじり差し込む力を働かせ、それが身体の中を通り頭の先にまで抜けると、スタンダードらしいしなやかなラインが出ます。

ぜひ研究してみてください。

後記:「講評」には、担当下さいました審査員の方々に担当割をさせて頂きました。

よって、選手一組ずつの講評を寄せて頂いた競技会や全体像としての講評を寄せて頂いた競技会等々、それぞれの文面に個性が表れており楽しくご覧になって頂けたらと思います。

※ 記載されている講評番号は採点集計表の審査員番号とは異なります。